

2008年3月期

株主通信 Vol.4

2007年4月1日～2008年3月31日



連結業績ハイライト

株主通信 Vol.4



表紙：インターネットマシン
SoftBank 9225H

2008年、インターネットマシン元年。
ケータイは“ボイスマシン”から
“インターネットマシン”へ進化します。

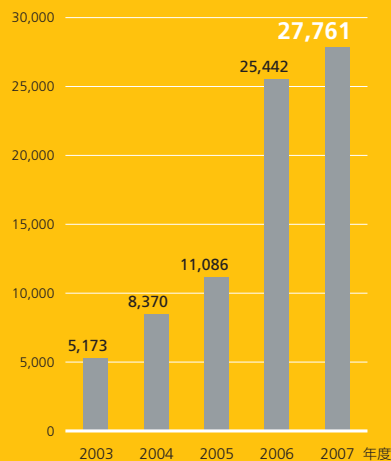
当期のポイント

- 創業以来最高水準の業績に
- 営業利益が3,000億円突破
- 携帯電話の純増数、2007年度No.1*

* 電気通信事業者協会(TCA)調べ。

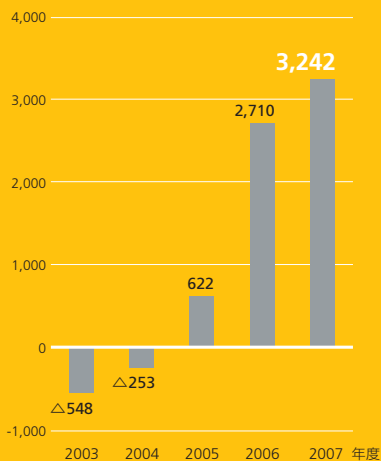
売上高

(単位：億円)



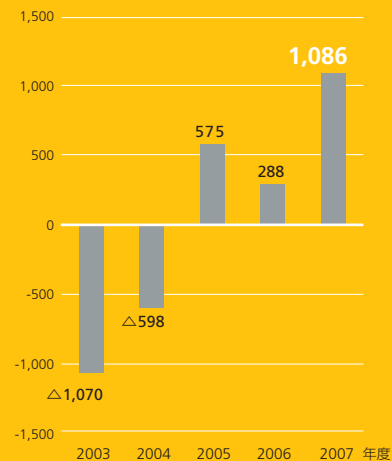
営業利益 (△損失)

(単位：億円)



当期純利益 (△損失)

(単位：億円)



お手持ちの株券はご本人名義になっていますか？

2009年1月(予定)より、株券の電子化が実施されます。

お手元に株券をお持ちの株主さまは、株券がご本人名義になっているかどうか必ずご確認ください。(巻末の「株主メモ」をご参照ください)

株主の皆さまへ

2007年度、最も選ばれたケータイブランド 「ソフトバンク」

2006年4月に携帯電話事業へ参入してから丸2年が経過しました。ボーダフォン日本法人を買収した当時は、携帯電話端末のラインアップが乏しく、サービス面でもお客さまに選ばれるだけの魅力や特長に欠けた、第3の携帯電話事業者でした。2006年10月に「ソフトバンク」ブランドで新たなスタートを切り、そして携帯電話の番号ポータビリティ（持ち運び制度。MNP）が始まったわけですが、われわれはMNPで苦戦すると言われ、ソフトバンクグループの将来を心配する声が社内外から聞こえてきたこともありました。

しかし、参入してから2年が経過した今の状況を見てみると、これまでわれわれがこの事業に注入してきた熱い思いや努力が、着実に実を結んでいることを感じます。MNPで乗り換えた後の満足度調査*1では、2007年12月に初めて1位となりました。2007年度の解約率は1.32%、3G（第3世代）携帯電話に限っては0.95%と、1%を下回っています。業界の常識を覆す数々の施策が、お客さまのニーズをしっかりとらえていたのです。そのすべてが純増数、2007年度No.1という結果として、つまり2007年度、最も選ばれたケータイブランドとして結実したことに集約されています。

*1 ブランド総合研究所調べ（2007年12月20日）。

**2008年、モバイルインターネットはひとつの
転換点を迎えます。**

**ソフトバンクはNo.1モバイルインターネット
カンパニーを目指し、世界のインターネットを
面白くしていきたいと考えています。**

2008年3月期決算説明会（2008年5月8日撮影）



インターネット接続は パソコンからケータイへ

ブランド力の向上が創業以来最高水準の業績に

価値観が多様化する中、多くのお客さまの支持を継続的に獲得していくのは容易ではありません。われわれは「ソフトバンク」というブランド力を高めるべく、特に携帯電話事業において「ブランディングの強化」を重点課題のひとつとして掲げてきましたが、ソフトバンク携帯電話のテレビCMで収めた成功は、われわれの商品・サービスの有意性を訴求できたという点で非常に意味のあるものでした。月次のCM好感度調査*2で、2007年8月度から11月度、2008年1月度から3月度にかけて、会社別、作品別、銘柄別のすべてにおいて首位を獲得し、2007年度中に7回“三冠”を達成したという快挙は、過去に例のなかったことです。

順調に伸びた携帯電話事業がひとつの大きな要因となり、2007年度の業績は大きく飛躍しました。2006年度に初めて2兆円を突破した売上高は、2007年度には2兆7,761億円まで拡大しました。利益面でも営業利益が20%増加の3,242億円、当期純利益が1,086億円となるなど、経常利益を含めいずれも創業以来最高の水準を達成しました。

われわれはこの結果に満足することなく、さらなる企業価値の向上を目指して挑戦を続けていきます。一方でわれわれが中長期的に目指しているステージは、単に数字で表されるものばかりではありません。*2 CM総合研究所/CM DATABANK調べ。

2008年、インターネットマシン元年

ソフトバンクは、パソコンのソフトウェアの流通からスタートし、その後、事業の中核をインターネットへ拡大しました。以来、生活するすべての人と場所に、ブロードバンド環境と多様なインターネットサービスを提供することを通じて、21世紀の新しいライフスタイルを創造するべく、業界をけん引してきましたが、今われわれが携帯電話事業に力を入れているのは、インターネット接続はパソコンから携帯電話へシフトしていくと確信しているからです。

今までの携帯電話は“ボイスマシン”であり、パソコンと同じようにインターネットを利用するには極めて不十分なものでした。その背景には通信速度が遅いことや、端末に搭載されるCPUが十分な性能を持っていないこと、画面が小さいことの3つが課題として挙げられます。われわれは、これらの課題が克服されるのが2008年であると考えています。

携帯電話は、1人ひとりが自分専用の端末を持ち、ほぼ24時間電源を入れたままの状態で常に“携帯”しています。先に挙げた課題が克服されれば、1日平均2時間程度しか使用されない家庭のパソコンと比べて、最も生活に密着した“インターネットマシン”になることは間違いありません。2008年は携帯電話がインターネットマシン化する、“インターネットマシン元年”なのです。

モバイルインターネットを制する者が インターネットを制する

そしてアジアを制する者が 世界を制する

アジアNo.1のインターネットカンパニーを目指して

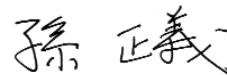
携帯電話を通じたインターネット利用が増加すると、次は
いかに魅力のあるコンテンツとポータルを提供できるかとい
う点が重要になってきます。この点において、われわれは
抜きん出た優位性を持っています。それはわれわれがインフ
ラを持つだけの「通信事業者」ではなく、ポータルとさまざま
なコンテンツをシームレスに提供できる、世界でも極めて
まれな「インターネットカンパニー」だからです。モバイル
インターネット時代にふさわしい、ソフトバンクらしい端末、
サービス、コンテンツが、今後も続々と登場します。

またソフトバンクグループのビジネスは、日本だけではあ
りません。われわれは近い将来、世界のインターネットの
中心はアジアになると考えているからです。現在インター
ネットにおけるキープレイヤーは米国に集中していますが、
市場規模の観点から見れば、中国を中心とするアジアの市場
が今後ますます重要度を増していきます。われわれは中国で
も事業の種をまいてきており、戦略的パートナーであるアリ

ババグループは、中国No.1のインターネットカンパニーと
なっています。「Yahoo! JAPAN」と中国No.1のアリババ
グループを足掛かりに、アジアNo.1インターネットカンパニー
を目指して今、これまで以上にはっきりと、デジタル情報
革命の先にある真のユビキタス社会を見据えています。

ソフトバンクグループは、この戦略とビジョンを具現化
することによって、収益性を一層高め、企業価値の最大化を
実現していきます。株主の皆さまにおかれましては、われわ
れの夢と志を共有していただき、今後とも変わらぬご支援を
賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2008年6月
ソフトバンク株式会社
代表取締役社長



ソフトバンクグループ経営理念

デジタル情報革命を通じて、人々が知恵と知識を共有することを推進し、
企業価値の最大化を実現するとともに人類と社会に貢献する

2007年度の ソフトバンクグループ

ソフトバンクグループは、生活するすべての場所と人に、ブロードバンド環境を提供する「21世紀のライフスタイル・カンパニー」を目指しています。

そしてインターネットの世界は今、自分の手のひらからあらゆる情報にアクセスできる時代へ変わろうとしています。その大きなうねりを作り出す、ソフトバンクグループの2007年度の動きをご紹介します。



4月

- BBソフトサービス、ストリーミングによるソフトウェア配信サービス「BBソフトダイレクト」の正式サービスを開始
- カービュー、SNS連動型オークション「カーライフ・オークション」を開始

5月

- ソフトバンクモバイル、「スタイル」にこだわった2007年夏商戦向けラインアップ12機種を発表
- ソフトバンクモバイルとTVバンク、ヤフー、ソフトバンク携帯電話向け動画コンテンツサービス「Yahoo!動画(ベータ版)」を開始
- ソフトバンクモバイル、新規契約から解約を差し引いた月間の純増数が初の首位に

6月

- ソフトバンクグループ、「フェムトセル」を使った通信システムの無線実験局免許を取得、情報通信サービスの多様化に向けた実証実験を開始
- ソフトバンクモバイル、家族間国内通話が24時間無料になる「ホワイト家族24」を開始

2007

10月

- ソフトバンク リブラ、携帯電話を活用してITとヘルスケアを融合させた健康管理サービス「ライフキャリア」の販売を開始
- ソフトバンクモバイル、「プレミアム」をテーマにした2007年冬商戦向けラインアップ10機種を発表

11月

- **中国Alibaba Group Holding Limited (アリババグループ)の子会社Alibaba.com Limited (アリババ・ドット・コム)が香港証券取引所に上場**(P.8に関連記事)
- ソフトバンクBB、新ブランド「SoftBank SELECTION」を立ち上げ、携帯電話アクセサリやパソコンソフトウェアの販売を開始

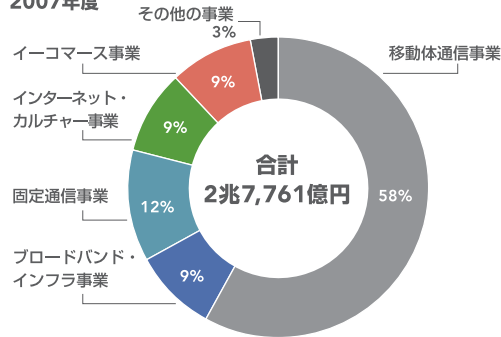
12月

- ソフトバンクIDC、12月1日を「データセンターの日」として登録
- **日本初の携帯電話を撮影機材とした映画祭「ポケットフィルム・フェスティバル」を開催**(P.11に関連記事)
- ソフトバンクモバイル、「ホワイトプラン」の申込件数が1,000万件を突破

ソフトバンクグループは、純粋持ち株会社のソフトバンク株式会社と、携帯電話サービスを提供する「移動体通信事業」をはじめ、ブロードバンド総合サービス「Yahoo! BB」を提供する「ブロードバンド・インフラ事業」、固定電話サービスやデータセンター事業などを展開する「固定通信事業」、「Yahoo! JAPAN」を中心にインターネット上のポータルサイトや広告事業などを展開する「インターネット・カルチャー事業」、パソコン向けソフトウェアやハードウェアの流通などを手がける「イーコマース事業」、および「その他の事業」で構成されています。

売上高構成比

2007年度



7月

- ソフトバンクBB、コンタクトセンター(コールセンター)の業務改善の取り組みを表彰する「コンタクトセンター・アワード2007」で金賞を受賞
- ハリウッドチャンネル、携帯電話向け無料映画検索サイト「東京シネマ ナニミル?」を開始

8月

- ソフトバンクモバイル、3G携帯電話の基地局数が46,000局を突破
- ソフトバンクモバイル、3G携帯電話の契約数が1,000万件を突破
- ソフトバンクモバイルとTVバンク、ヤフー、「Yahoo!動画(ベータ版)」でストリーミング形式の動画配信を開始

9月

- ソフトバンクモバイル、お好みの電子コミック1話を情報料無料で閲覧できるサービス「タダコミ」のタイトル数が、1,000タイトルを突破
- ソフトバンクBB、プロバイダーフリーで格安通話と便利なアプリケーション群を提供する、統合コミュニケーションサービス「BBコミュニケーション」を開始

2008

1月

- ソフトバンクモバイル、2008年春商戦向け“自由”と“個性”の「The Full Lineup」15機種を発表
- ソフトバンクIDC、「ASP・SaaS・ICTアウトソーシングアワード2007/2008」IDC部門で準グランプリを受賞(P.10に関連記事)
- ソフトバンクモバイル、相手先がソフトバンク携帯電話かどうかを識別できる「ソフトバンク呼び出し音」を全国に拡大

2月

- ソフトバンクモバイル、ホワイトプランの基本使用料が3年間無料になる、学生向け割引サービス「ホワイト学割」の販売を期間限定で開始
- ソフトバンクモバイル、「新スーパーボーナス」 「スーパーボーナス」の契約数が1,000万件を突破

3月

- ソフトバンクモバイル、社員間国内通話が24時間無料になる「ホワイト法人24」を開始
- ソフトバンクモバイル、新規契約から解約を差し引いた純増数が2007年度No.1に(P.6に関連記事)

1

2007年度の純増数 No.1 を獲得

in depth

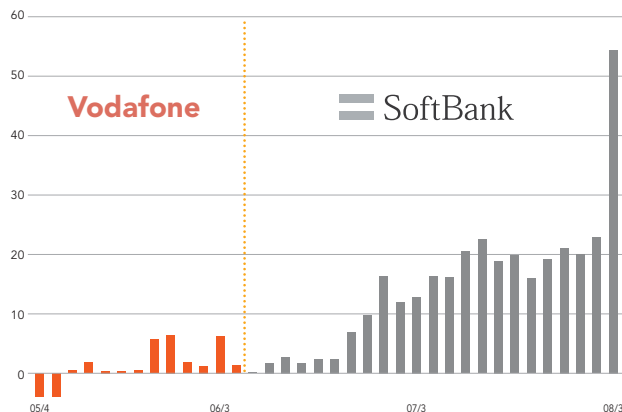
最も選ばれたケータイブランドに

ソフトバンクモバイルは、2007年度の新規契約から解約を差し引いた純増数が267万6,500件となり、年度ベースで初のNo.1*になりました。これはデジタルホン/デジタルツーカー、J-フォン、ボーダフォン時代を通じて初の快挙です。月間の純増数で首位になったのは2007年5月。それ以来、実に11カ月連続で純増数No.1となり、2008年3月の純増数は50万件を突破し、ソフトバンクモバイルとして過去最高を記録しました。

私たちが行ってきたさまざまな取り組みには、ときに業界の常識を覆すような挑戦的なものもありましたが、すべてはユーザーの視点から出発したものでした。日本のケータイをもっと面白く、もっと便利に、自由で個性的な展開で、ずっとお客さまに選ばれ続けるソフトバンクを目指します。

* 電気通信事業者協会 (TCA) 調べ。

純増数推移 (単位: 万件)



「ホワイトプラン」シリーズ勢揃い

すべての人に「安くて、シンプル」を

ホワイトプラン Wホワイト^{半額} ホワイト家族24^{24時間無料}

ホワイト法人24 ホワイト法人24+

2008年3月に申込件数が1,200万件を突破した「ホワイトプラン」。月額基本使用料980円(税込み)でソフトバンク携帯電話へ通話し放題*1、ソフトバンク3G携帯電話ならメールも無料というシンプルさが、多くのお客さまにソフトバンク携帯電話を体験していただくきっかけとなり、ソフトバンクを代表する料金プランになりました。

他社携帯電話や固定電話への国内通話料が半額になる「Wホワイト」や、家族間国内通話が24時間無料になる「ホワイト家族24」と、ホワイトプランの裾野が広がっています。さらにホワイトプランの「安くて、シンプル」をビジネスシーンでも利用していただけるよう、社員間国内通話が24時間無料になる「ホワイト法人24」*2、回線数上限なしの「ホワイト法人24+」*3がスタート。これからもソフトバンクが一番使いやすい携帯電話であり続けるように、サービスを強化していきます。

「ホワイト家族24」とは「家族割引(ホワイトプラン)」の、「ホワイト法人24」とは「法人割引(ホワイトプラン)」の通称です。

*1. 1時から21時までの国内通話が対象です。TVコール(テレビ電話)、64Kデジタルデータ通信は対象外となります。

*2. 同一法人名義の携帯電話を同じグループ(最大10回線)としてお申し込みいただく必要があります。

*3. 1回線当たり月額880円(税込み924円)の追加料金が必要です。

2

インターネットマシン元年を彩るニューモデル登場

2008年、本格的なモバイルインターネットの幕開け

in depth

2008年、「インターネットマシン SoftBank 922SH」が登場し、本格的なモバイルインターネットの時代が幕を開けました。

そして2008年の夏商戦向けラインアップは、すべて「3Gハイスピード」対応で「PCサイトブラウザ」を搭載。モバイルインターネットを快適に楽しめるほか、「ワンセグ」を大画面で見られるニューモデルが続々と登場します。

インターネットマシン

SoftBank 922SH

(シャープ製、ボディカラー4色)

閉じて電話、開いてキーボードスタイルの新しいユーザーインターフェースを採用。3.5インチフルワイドVGA液晶&フルキーボード搭載でインターネットもワンセグも快適。



2008年 夏商戦向けラインアップ

SoftBank 923SH

(シャープ製、ボディカラー5色)

5.2メガピクセルカメラ、GPS機能、ワンセグチューナー、辞書機能などを搭載した「AQUOSケータイ」。1,677万色の色表現性能や追っかけ再生など、進化したテレビ機能はスポーツ観戦に最適。(2008年7月発売予定)



PANTONE® SLIDE

SoftBank 825SH

(シャープ製、ボディカラー8色)

PANTONE®ならではのポップな色使いは、もはやファッションアイテム。「モーションコントロールセンサー」搭載で、使って楽しいコンパクトなフルスライダーケータイ。(2008年7月発売予定)

SoftBank 821N

(NEC製、ボディカラー5色)

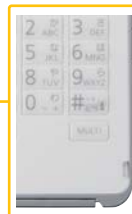
薄さ13.6mmのボディに3.0インチワイドQVGA液晶搭載。119個のLEDによる光の演出と、きれいなカラーでオトナかわいい薄型ワンセグ。(2008年7月発売予定)

Tropical

SoftBank 823P

(パナソニック モバイルコミュニケーションズ製、ボディカラー5色)

生活防水機能に加え3.0インチワイドQVGA液晶と、長いネイルでも押しやすいウェーブタイルキー搭載。持ち歩くのがうれしくなるような、透明感のある上質なデザイン。(2008年7月発売予定)



SoftBank 823T

(東芝製、ボディカラー4色)

カラーごとに異なる手触りの素材を両面に採用。使いやすさの3要素(大きさ、形状、クリック感)に徹底的にこだわり抜いたボタンを採用した、高級感に溢れるワンセグケータイ。(2008年9月発売予定)

開発中の情報に基づいて作成したものです。実際のデザインや仕様と異なる場合があります。

3

in depth

中国と世界を結ぶ架け橋 中国No.1インターネットカンパニー アリババグループ

ソフトバンクグループの中国における戦略的パートナーであるアリババグループは、傘下にAlibaba.com (アリババ・ドット・コム)、Taobao (タオバオ)、Alipay (アリペイ) などを持ち、中国でトップシェアを誇る電子商取引企業グループとして、世界でその存在感を高めています。さらにアリババ・ドット・コムが2007年11月、香港証券取引所に上場し、グループ全体の成長を加速させようとしています。

そのアリババ・ドット・コムの日本における事業会社「アリババ株式会社」は、2008年5月にソフトバンクとの合併会社として新たなスタートを切りました。ソフトバンクグループが持つ

日本国内でのインターネット分野における経験を生かして、日本企業のニーズに合わせたサービス開発やさらなる利便性の向上を図っていきます。



アリババグループ

主な事業会社



アリババ・ドット・コム(www.alibaba.com)：240余りの国と地域で約3,000万*1ユーザーが利用する、企業間電子商取引オンライン・マーケットを運営しており、中国でのマーケットシェア75%*2のリーディングカンパニーです。



タオバオ(www.taobao.com)：中国で6,200万人以上*1の登録ユーザーを持ち、84%*3の圧倒的なマーケットシェアを誇る、消費者向けインターネットオークションサイトです。



アリペイ(www.alipay.com)：ユーザー数7,400万人*1を誇り、中国で約5割*2のシェアを占めるNo.1オンライン決済サービスです。中国すべての主要銀行と提携し、安全、手軽、迅速な決済サービスを提供しています。



中国Yahoo!(www.yahoo.com.cn)：さまざまなインターネットサービスを提供している、おなじみの検索エンジン&ポータルサイトです。また中国における電子商取引の発展に重要な役割を果たし、インターネット広告業界をけん引する中心的プラットフォームとなっています。



アリソフト(www.alisoft.com)：中国の中小企業向けに、さまざまなビジネス用ソフトウェアをインターネット経由で提供しており、中国における電子商取引を支えています。

ソフトバンクグループ

米Yahoo! Inc.

アリババグループ経営陣・従業員、その他少数株主

出資

*1. 2008年3月現在。
*2. 2007年実績、アリババ・ドット・コム調べ。
*3. 2007年実績、iResearch China Online Shopping research report (2007-2008)より。



福岡ソフトバンクホークス 2008年シーズンの見どころ

今シーズンのホークスの見どころは、期待のルーキーを含めた若手と、ベテラン勢によるバランスの取れた試合運びです。松中、川崎、柴原、大村、本多といったリーグを代表する左打者を数多く擁し、小久保、多村と右打者にも注目選手が並び、時には豪快に、時には緻密な攻撃を展開できる球界屈指の打線と言えます。またホークスの魅力は、投手陣にもあります。開幕投手の杉内、完全復活を遂げた和田に加え、ゴールドenルーキー・大場と、2年目の大隣、さらにガトームソンやパウエルといった外国人投手が脇を固めています。

ホークスは「今年こそ優勝!」の合言葉の下、日本一奪回を目指して日々戦っています。株主の皆さまの熱いご声援をお願いします。



これぞエース! 8回3安打12奪三振、無四球の杉内投手(2008年5月2日撮影)
©SoftBank HAWKS

2008年シーズンのパ・リーグ全試合を「Yahoo!動画」で



パソコン版「パ・リーグ熱球ライブ!」(左)とケータイ版「熱球! パ・リーグ動画」(右)

国内最大級の動画ポータルサイト「Yahoo!動画」では、今シーズンのパシフィック・リーグ(パ・リーグ)全試合の様態を、情報料無料でインターネット配信しています。パ・リーグ全6球団の主催するすべての公式戦、セ・パ交流戦、パ・クライマックスシリーズをインターネットで配信するのは、今シーズンが初めてです。

またソフトバンク3G携帯電話向けの「Yahoo!動画(ベータ版)」では、パ・リーグ6球団に加えてセントラル・リーグの阪神タイガース、読売ジャイアンツなどの主催試合の公式戦、セ・パ交流戦のダイジェスト映像を情報料無料で配信します。

多くの野球ファンが、いつでもどこにいても、試合を気軽に視聴できる環境をつくることで、プロ野球の人気向上に貢献していきます。

アクセス方法

- パソコン版「Yahoo!動画」トップ <http://streaming.yahoo.co.jp/>
⇒ スポーツ ⇒ パ・リーグ熱球ライブ!
- ケータイ版(ソフトバンク3G携帯電話から)「Yahoo!ケータイ」トップ ⇒ 動画 ⇒ スポーツ

パソコンで「パ・リーグ熱球ライブ!」を視聴するには、動画視聴ソフト「BBブロードキャスト」が必要です。

ソフトバンクグループ探訪 ソフトバンクIDC株式会社

データセンターの役割

データセンターとは、サーバーやルーターなどのネットワーク機器を設置・保管し、ネットワークへの接続インフラ網を提供するサービスのことで、インターネット通信の基盤を支える重要な役割を担っています。ブロードバンドインターネット接続の利用が拡大する中、データやシステムが安全に保守・管理され、システムが安定して稼動するために、データセンターの担う役割はますます大きくなっています。

卓抜した信頼性と技術力を誇る

ソフトバンクIDCのデータセンター

ソフトバンクIDCは、「『質・量共に日本No.1』のデータセンター群を組成する」「ソフトバンクグループのBB(ブロードバンド)事業に最大限貢献する」「データセンター事業としてビジネスモデルを確立する」を基本理念としています。日本国内に展開する9つのデータセンターのうちのひとつ、新宿データセンターは極めて高いセキュリティーレベルと、万全の災害対策性能を確保しているのはもちろんのこと、最新のブレードサーバーが排出する熱への対策として、冷気と暖気を分離する最新の省エネルギー空調システム「ColdMall®」を導入しています。設備・運用両面での信頼性と技術力の高さに加え、データセンターのリニューアルを既存の設備・サービスに一切影響を与えずに行った実績などが評価され、ASPIC*が主催する「ASP・SaaS・ICTアウトソーシングアワード2007/2008」のIDC部門で、準グランプリ大規模分野を受賞しました。

* 特定非営利活動法人ASP・SaaSインダストリー・コンソーシアム。

今後のソフトバンクIDC

データセンター市場のさらなる拡大・活性化を背景に、ソフトバンクIDCは福岡県北九州市に、国内最大級のデータセンターコンプレックス「アジア・フロンティア」を建設中です。「アジア・フロンティア」は国内のデータセンターで初めて、サーバーの冷却に外気を利用する環境配慮型の空調システム「GreenMall®」を導入し、CO₂排出削減に貢献するほか、地理的優位性を利用し、東アジアに向けた戦略拠点としても機能させることを計画しています。また仮想化技術や遠隔地バックアップシステムの導入など、常に新しい技術の導入による高付加価値サービスの開発に努めています。ソフトバンクIDCは、インターネット社会のビジネスプラットフォームの提供にとどまることなく、データセンター事業の革新を目指しています。



サーバー運用に最適な環境を提供する空調システム「ColdMall®」



「アジア・フロンティア」完成予想図

会社概要

ソフトバンクIDC株式会社
本社: 東京都新宿区
設立: 1986年11月17日
社長: 真藤 豊 (しんとう・ゆたか)
www.sbdc.jp

ソフトバンクグループのCSR活動

ソフトバンクグループはあすのインターネット社会を見つめ、ステークホルダーの皆さまとともに発展する企業でありたいと考えています。そのために、われわれは企業の社会的責任（CSR）活動を重要な企業活動のひとつとらえ、さまざまな取り組みを行っています。

シニアのための携帯電話講習会

高齢者や障がい者などの社会参加支援を目的に、IT分野を中心とした非営利事業活動に取り組むNPO法人「イー・エルダー」と協同で、「シニアのための携帯電話講習会」を開催しています。講習会ではシニアの方を対象に、携帯電話を初めて使う方のための入門コースから、より幅広く機能を使いこなしたい方の中級コースまで設定し、もっと楽しく、豊かなケータイライフのために丁寧な講習を行っています。ソフトバンクグループは、講習で使用する携帯電話の貸し出しや、社員ボランティアの派遣などを行っています。

またソフトバンクグループでは、見やすい文字や操作しやすいボタンにこだわった「かんたん携帯 SoftBank 821T」を発売しています。ぜひ店頭で手に取って、その使いやすさを体験してください。今後もソフトバンクグループはお客さま本位の視点で、分かりやすさと安心をすべての人に提供していきます。

お問い合わせ：特定非営利活動法人イー・エルダー www.e-elder.jp TEL: 03-5728-3571



シニアのための携帯電話講習会
(2008年4月29日撮影)



かんたん携帯
SoftBank 821T
(東芝製)



「ポケットフィルム・フェスティバル」
受賞作発表 (2007年12月9日撮影)



携帯電話で作品を鑑賞する参加者

日本初の携帯電話を撮影機材とした映画祭 「ポケットフィルム・フェスティバル」を開催

東京藝術大学とソフトバンクグループなどは、携帯電話による映像表現の発展を目指し、日本初の携帯電話を撮影機材とした映画祭「ポケットフィルム・フェスティバル」を開催しました。

まず2007年9月から11月にかけて作品募集が行われ、プロ・アマを問わず400本を超える作品が寄せられました。ソフトバンクグループでは、公募一次審査を通過した作品48本を「Yahoo!動画」で配信するなど、認知度の向上を図りました。このポケットフィルム・フェスティバルは2007年12月に横浜市内で開催され、公募作品の上映、審査結果発表のほか、シンポジウムやワークショップなどが行われました。

ソフトバンクグループは健全なインターネット社会と、夢と志を持つ次世代を育むべく、さまざまな活動に取り組み、人々が幸せになる社会づくりに貢献していきます。

一次審査通過作品48本の中から選ばれた受賞作品は、ポケットフィルム・フェスティバル公式サイトでご覧いただけます。
www.pocketfilms.jp

連結財務諸表

連結業績

ソフトバンクグループは、携帯電話事業への参入直後に「3G携帯電話ネットワークの増強」「3G携帯電話端末の充実」「携帯コンテンツの強化」「営業体制/ブランディングの強化」を重点課題として掲げ、顧客基盤の拡大や「ソフトバンク」ブランドの認知度の向上に取り組んできました。その結果、ソフトバンクモバイルの新規契約から解約を差し引いた当期の純増数は267万6,500件となり、通期ベースで初の首位を獲得しました。

移動体通信事業において、携帯電話契約数の増加に伴い端末の販売台数が好調に推移していることや、当期からソフトバンクモバイルの業績が12カ月分(前期は11カ月分)反映されていることなどが収益拡大に寄与し、当期の売上高は創業以来最高の2兆7,000億円を突破し、また営業利益、経常利益、当期純利益のいずれにおいても創業以来最高の水準を達成しました。

当期の売上高は2,776,168百万円となり、前期と比較して231,949百万円(9.1%)増加しました。営業利益は

324,287百万円となり、前期と比較して53,221百万円(19.6%)増加しました。また当期の売上原価は1,467,363百万円となり、前期と比較して57,843百万円増加し、販売費及び一般管理費は984,517百万円となり、前期と比較して120,884百万円増加しました。

持分法による投資利益の計上などにより、営業外収益は69,387百万円となり、前期と比較して55,856百万円増加しました。一方、支払利息などの営業外費用は135,060百万円となり、前期と比較して3,887百万円の増加にとどまりました。その結果、経常利益は258,614百万円(前期比68.6%増加)となりました。

特別利益は29,785百万円、特別損失は62,511百万円となりました。そのほか法人税、住民税及び事業税を48,649百万円、法人税等調整額を29,533百万円それぞれ計上しました。以上の結果、当期純利益は108,624百万円(前期比277.0%増加)となりました。

業績の推移 (単位:百万円)

連結会計年度(4月1日から翌年3月31日までの1年間)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
売上高	517,393	837,018	1,108,665	2,544,219	2,776,168
営業利益(△損失)	△54,893	△25,359	62,299	271,065	324,287
経常利益(△損失)	△71,901	△45,248	27,492	153,423	258,614
当期純利益(△損失)	△107,094	△59,871	57,550	28,815	108,624
1株当たり当期純利益(△損失)* (円)	△104.91	△57.01	54.36	27.31	101.68
1株当たり配当金* (円)	2.33	2.33	2.50	2.50	2.50

* 1株当たり当期純利益(△損失)/配当金については、2006年1月5日付実施の株式分割(1株を3株に分割)を加味した遡及(そきゅう)修正を行っています。

連結貸借対照表

	前期末 (2007年3月31日現在)	当期末 (2008年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	1,247,433	1,582,744
現金及び預金	377,666	491,161
受取手形及び売掛金	583,972	887,723
棚卸資産	76,898	72,150
繰延税金資産	108,994	105,850
その他	99,902	25,859
固定資産	3,059,240	2,973,337
有形固定資産	1,029,852	1,029,265
無形固定資産	1,279,710	1,238,309
投資その他の資産	749,677	705,763
繰延資産	4,178	2,818
資産合計	4,310,852	4,558,901

受取手形及び売掛金

前期末比303,750百万円の増加

ソフトバンクモバイルで携帯電話端末の割賦販売が好調に推移したことによるものです。

有形固定資産

基地局・交換設備などの通信機械設備が49,252百万円増加した一方で、設備の竣(しゅん)工により建設仮勘定が26,201百万円減少しました。

無形固定資産

前期末比41,401百万円減少

のれんが償却などにより58,491百万円減少した一方で、ソフトウェアが23,564百万円増加しました。

	前期末 (2007年3月31日現在)	当期末 (2008年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	1,142,903	1,240,704
支払手形及び買掛金	195,167	187,279
短期借入金	193,656	448,571
一年内償還予定の社債	43,964	52,540
未払金及び未払費用	415,561	364,450
一年内支払予定リース債務	18,049	69,770
預り担保金	150,000	—
その他	126,504	118,091
固定負債	2,451,712	2,469,472
社債	422,599	445,211
長期借入金	1,729,183	1,586,645
リース債務	74,964	241,496
その他	224,965	196,118
負債合計	3,594,615	3,710,176
純資産の部		
株主資本	158,515	307,213
資本金	163,309	187,422
新株式申込証拠金	1	—
資本剰余金	187,669	211,740
利益剰余金	△192,271	△91,744
自己株式	△193	△206
評価・換算差額等	124,434	76,529
その他有価証券評価差額金	122,619	80,914
繰延ヘッジ損益	△26,995	△11,823
為替換算調整勘定	28,810	7,437
新株予約権	3,180	120
少数株主持分	430,106	464,862
純資産合計	716,237	848,725
負債及び純資産合計	4,310,852	4,558,901

短期借入金/預り担保金

従来「預り担保金」として区分掲記していたものは、当期から「短期借入金」に含めて表示しています。なお従来の預り担保金に相当する短期借入金の残高は、130,000百万円でした。

長期借入金

前期末比142,537百万円減少

ソフトバンクモバイルが事業証券化により調達した長期借入金の残高は、前期末から78,602百万円減少して1,276,488百万円となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	前期 (2006年4月1日～ 2007年3月31日)	当期 (2007年4月1日～ 2008年3月31日)
売上高	2,544,219	2,776,168
売上原価	1,409,520	1,467,363
売上総利益	1,134,698	1,308,805
販売費及び一般管理費	863,633	984,517
営業利益	271,065	324,287
営業外収益	13,531	69,387
営業外費用	131,173	135,060
経常利益	153,423	258,614
特別利益	92,653	29,785
特別損失	37,503	62,511
税金等調整前当期純利益	208,573	225,887
法人税、住民税及び事業税	48,726	48,649
法人税等調整額	93,676	29,533
少数株主利益	37,355	39,079
当期純利益	28,815	108,624

営業外収益

Alibaba.com Limitedが2007年11月、香港証券取引所に新規上場したことなどに伴い、持分法による投資利益を55,411百万円計上しました。

特別損失

ソフトバンクテレコムがアナログ回線用の通信設備の一部について、合計で26,250百万円の特別損失を計上しました。

法人税等調整額

ソフトバンクモバイルで77,535百万円を計上(借方)した一方で、BBモバイルが次期から連結納税制度の適用を受けることに伴い、39,831百万円を計上(貸方)しました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期 (2006年4月1日～ 2007年3月31日)	当期 (2007年4月1日～ 2008年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	311,201	158,257
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,097,937	△322,461
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,718,384	284,727
現金及び現金同等物の期末残高	377,520	490,266

財務活動によるキャッシュ・フロー

284,727百万円のプラス
主に移動体通信事業において、新規取得設備のリース化による収入を297,922百万円、携帯電話端末の販売に係る割賦債権の流動化などに伴い、長期借入による収入を280,716百万円それぞれ計上しました。

連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度（2006年4月1日～2007年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等					新株予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	新株式申込 証拠金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価 証券評価 差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
期首残高	162,916	5	187,303	△218,561	△169	131,494	129,051	△36,840	19,062	111,273	3,150	101,346	347,263
当期変動額													
新株の発行	393	△5	393	—	—	780	—	—	—	—	—	—	780
新株式申込証拠金の払込	—	1	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
剰余金の配当	—	—	—	△2,637	—	△2,637	—	—	—	—	—	—	△2,637
役員賞与	—	—	—	△90	—	△90	—	—	—	—	—	—	△90
持分法適用会社の減少に伴う増加高	—	—	—	392	—	392	—	—	—	—	—	—	392
連結子会社の減少に伴う増加高	—	—	—	708	—	708	—	—	—	—	—	—	708
持分法適用会社の減少に伴う減少高	—	—	△26	△452	—	△478	—	—	—	—	—	—	△478
連結子会社の減少に伴う減少高	—	—	—	△446	—	△446	—	—	—	—	—	—	△446
当期純利益	—	—	—	28,815	—	28,815	—	—	—	—	—	—	28,815
自己株式の取得	—	—	—	—	△23	△23	—	—	—	—	—	—	△23
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	—	—	—	—	—	—	△6,432	9,845	9,747	13,160	30	328,760	341,951
当期変動額合計	393	△3	366	26,289	△23	27,021	△6,432	9,845	9,747	13,160	30	328,760	368,973
期末残高	163,309	1	187,669	△192,271	△193	158,515	122,619	△26,995	28,810	124,434	3,180	430,106	716,237

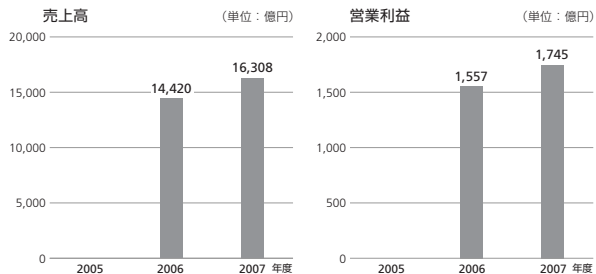
当連結会計年度（2007年4月1日～2008年3月31日）

（単位：百万円）

	株主資本					評価・換算差額等					新株予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	新株式申込 証拠金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価 証券評価 差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
期首残高	163,309	1	187,669	△192,271	△193	158,515	122,619	△26,995	28,810	124,434	3,180	430,106	716,237
当期変動額													
米子会社の新会計基準適用による 利益剰余金の減少高	—	—	—	△5,150	—	△5,150	—	—	—	—	—	—	△5,150
新株の発行	24,113	△1	24,701	—	—	48,183	—	—	—	—	—	—	48,183
剰余金の配当	—	—	—	△2,639	—	△2,639	—	—	—	—	—	—	△2,639
持分法適用会社の増加に伴う増加高	—	—	—	211	—	211	—	—	—	—	—	—	211
持分法適用会社の減少に伴う増加高	—	—	—	54	—	54	—	—	—	—	—	—	54
連結子会社の減少に伴う増加高	—	—	—	62	—	62	—	—	—	—	—	—	62
持分法適用会社の増加に伴う減少高	—	—	—	△552	—	△552	—	—	—	—	—	—	△552
持分法適用会社の減少に伴う減少高	—	—	—	△36	—	△36	—	—	—	—	—	—	△36
連結子会社の減少に伴う減少高	—	—	—	△46	—	△46	—	—	—	—	—	—	△46
当期純利益	—	—	—	108,624	—	108,624	—	—	—	—	—	—	108,624
自己株式の取得	—	—	—	—	△12	△12	—	—	—	—	—	—	△12
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	—	—	—	—	—	—	△41,704	15,172	△21,372	△47,904	△3,060	34,755	△16,209
当期変動額合計	24,113	△1	24,071	100,527	△12	148,697	△41,704	15,172	△21,372	△47,904	△3,060	34,755	132,487
期末残高	187,422	—	211,740	△91,744	△206	307,213	80,914	△11,823	7,437	76,529	120	464,862	848,725

セグメント別業績

移動体通信事業



※ 2006年度より移動体通信事業セグメントを新設しました。なお2006年度の業績には、ソフトバンクモバイルの11カ月分の業績が反映されています。

移動体通信事業

売上高は1,630,851百万円となり、前期と比較して188,811百万円(13.1%)増加しました。営業利益は174,570百万円となり、前期と比較して18,826百万円(12.1%)増加しました。これは主に、当期からソフトバンクモバイルの業績が12カ月分(前期は11カ月分)反映されていることに加えて、携帯電話の新規契約の件数が順調に増加したことに伴い、携帯電話端末の販売台数が大幅に伸びたことによるものです。

ソフトバンクモバイルの当期末の全契約数は、前期末から267万6,500件増加して累計で1,858万6,200件*1となり、シェアは前期末から1.7ポイント上昇して18.1%となりました。また新規契約から解約を差し引いた月間の純増数が、2007年5月から当期末にかけて11カ月連続で首位を継続し、さらに通期ベースで初の首位を獲得しました。そのほか当期末の3G携帯電話の契約数は1,400万件を超え、全契約数の4分の3を突破しました。

当期の解約率は1.32%となりました。3G携帯電話端末の充実や魅力的な料金プラン、サービスの提供と、端末の割賦販売が奏功し、解約率は着実に低下しました。さらに当期の第3・第4四半期の、3G携帯電話のみの解約率は1%を下回る低水準となりました。また当期の買替率は2.20%となりました。携帯電話の番号ポータビリティに合わせて、3G携帯電話端末を急速に充実させたことにより、一時的に買替率が上昇した前期と比較

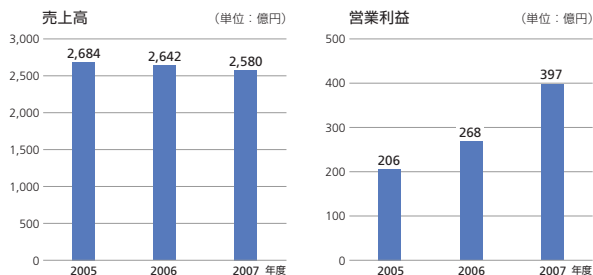
して、低水準となりました。

当期の総合ARPU*2は4,650円となり、前期と比較して860円減少しました。これは「ホワイトプラン」の申込件数が順調に増加していることや、「新スーパーボーナス」加入者向けの特別割引の影響が拡大していることによるものです。データARPUは1,490円となり、総合ARPUに占める比率は32.1%となりました。また当期の顧客獲得手数料平均単価は32,300円となりました。

移動体通信事業の重点課題への取り組み状況は、次の通りです。「3G携帯電話ネットワークの増強」については、基地局をさらに増設し、また契約数の増加に対応してネットワークの増強を推進しました。当期の移動体通信事業での設備投資額(実行ベース)は235,396百万円で、当期末の基地局数は5万1,320局となり、前期末の2万9,404局から約2万2,000局増設しました。

「3G携帯電話端末の充実」については、前期の合計32機種・152色(3G携帯電話のみ)を上回る、合計36機種・172色の3G携帯電話端末を当期中に発売し、さらに充実を図りました。ソフトバンクグループは、2008年を「インターネットマシン元年」と位置付け、携帯電話がデータ通信の利用に特化した“インターネットマシン”に進化していくととらえています。その“インターネットマシン”を冠した新機種「インターネットマシン SoftBank 922SH」を、2008年3月から発売しました。

ブロードバンド・インフラ事業



ブロードバンド・インフラ事業

売上高は258,069百万円となり、前期と比較して6,158百万円(2.3%)減少しました。営業利益は39,700百万円となり、前期と比較して12,890百万円(48.1%)増加しました。

ソフトバンクBBの総合ブロードバンドサービス「Yahoo! BB ADSL」の、当期末の累積接続回線数は480万9,000回線、当期のユーザー支払いベースのARPUは、第1四半期が4,358円、第2四半期が4,341円、第3四半期が4,316円、第4四半期が4,292円となりました。また当期末の「Yahoo! BB 50M」などの高速サービスの加入比率は30.7%、「無線LANパック」の加入比率は30.2%となりました。ADSL事業では経営の効率化を追求することにより、営業利益が拡大しています。

「営業体制/ブランディングの強化」については、前期に引き続きソフトバンクショップを増やすなど、販売チャネルの充実を図りました。当期末のソフトバンクショップ数は2,653店となり、前期末から578店増加しました。また広告宣伝を通じて「ソフトバンク」ブランドの認知度やブランド力の向上に努めた結果、月次のCM好感度調査*3では、2007年8月度から2008年3月度にかけて(2007年12月度を除く)、会社別、作品別、銘柄別の3項目すべてにおいて首位を獲得し、当期中に7回“三冠”を達成しました。

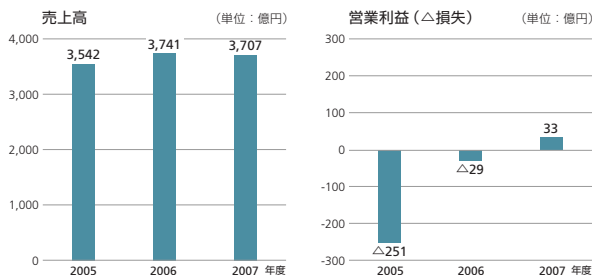
「ホワイトプラン」の申込件数は順調に増加し、2008年3月20日に1,200万件を突破しました。前期末に300万件を突破してから、当期中に約900万件増加したことになります。またホワイトプラン専用割引サービス「Wホワイト」の同日現在の申込件数は、414万件に達しました。

*1. ソフトバンクモバイルの全契約数には、当期から通信モジュールの契約数が加算されています。なお当期末の通信モジュールの契約数は1,600件でした。

*2. Average Revenue Per User: 契約者1人当たりの平均収入。

*3. CM総合研究所/CM DATABANK調べ。

固定通信事業



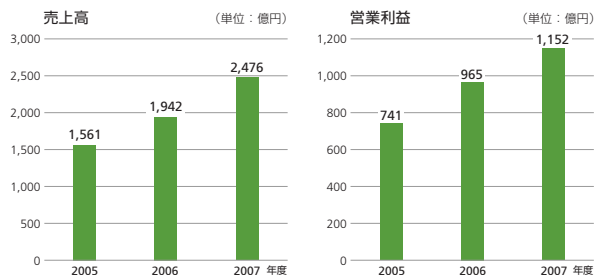
固定通信事業

売上高は370,740百万円となり、前期と比較して3,389百万円(0.9%)減少しました。営業利益は3,340百万円(前期は2,965百万円の営業損失)となりました。2005年3月期に当事業セグメントを新設してから、通期ベースで初めて営業黒字となりました。

ソフトバンクテレコムは直収型固定電話サービス「おとくライン」を軸に、法人ビジネス基盤を拡大しています。「おとくライン」の回線数は着実に増加しており、当期末の累積接続回線数は140万1,000回線で、前期末から18万回線増加しました。そのうち法人契約が占める比率は70.4%となり、前期末と比較して10.4ポイント上昇しました。ソフトバンクテレコムでは、引き続き収益性の高い大企業向け直販に注力しています。

なおソフトバンクテレコムは、「おとくライン」の法人向けデジタル回線の需要が増加していることから、アナログ回線用の通信設備の一部について、合計で26,250百万円の特別損失を計上しました。

インターネット・カルチャー事業



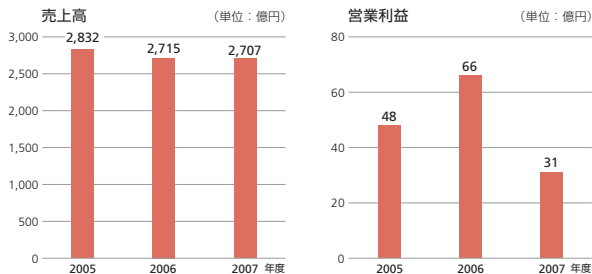
インターネット・カルチャー事業

売上高は247,642百万円となり、前期と比較して53,430百万円(27.5%)増加しました。営業利益は115,237百万円となり、前期と比較して18,692百万円(19.4%)増加しました。

ヤフーの広告事業では、2007年10月から販売を開始した「プライムディスプレイ」や、2008年1月のYahoo! JAPAN トップページの全面リニューアルに伴いサイズを拡大した「ブランドパネル」など、ブランディング効果の高い広告商品の売り上げが伸びたほか、行動ターゲティングの利用も拡大し、ディスプレイ広告の通期の売り上げは前期と比較して堅調に推移しました。また検索連動広告の売り上げは、さらなる市場の拡大および検索サービスの利用増加に加えて、2007年7月より品質インデックスと入札単価を考慮した広告掲載を開始したことなどにより、前期と比較して大きく増加しました。

広告以外の法人向け事業では、「Yahoo!不動産」が掲載件数の拡大およびサイトのリニューアルにより大きく売り上げを伸ばすなど、情報掲載関連の売り上げが順調に推移しました。このほか「Yahoo!ショッピング」では引き続き新規ストアの売場に努めた結果、当期末の「Yahoo!ショッピング」および「Yahoo!オークション」ストア数は合計で31,289店舗となり、前期末と比較して4,245店舗増加し、「Yahoo!ショッピング」および「Yahoo!オークション」のテナント料、手数料収入も好調に推移しました。

イーコマース事業



イーコマース事業

売上高は270,723百万円となり、前期と比較して846百万円(0.3%)減少しました。営業利益は3,156百万円となり、前期と比較して3,524百万円(52.8%)減少しました。

当期のソフトバンクBBの流通事業では、ルーターやスイッチといったネットワーク機器、サーバーやクライアントパソコンなどの法人向けIT機器の売り上げが堅調に推移しました。家電量販店向けではハードウェアの売り上げが伸びた一方で、利益率の高いソフトウェアの売り上げが伸び悩んだことや商品評価損を計上したことと、法人向けモバイルソリューション事業やSaaS*事業といった新規事業への先行投資などにより、営業減益となりました。

同社では新ブランド「SoftBank SELECTION」を2007年11月より立ち上げ、同社が厳選した携帯電話のアクセサリーやパソコンのソフトウェアの販売を、一部のソフトバンクショップや家電量販店などで開始しました。当期中に発売したアイテム数は393点で、そのうちソフトウェアのタイトル数は22本でした。

* Software as a Service: ユーザーが、インターネットを通して必要なアプリケーションを利用できるサービス。

その他の事業

売上高は99,873百万円となり、前期と比較して9,088百万円(10.0%)増加しました。営業損失は5,121百万円(前期は4,730百万円の営業損失)となりました。

「その他の事業」には、放送メディア事業(主にブロードメディア)、テクノロジー・サービス事業(ソフトバンク・テクノロジー)、メディア・マーケティング事業(主にソフトバンク クリエイティブ、アイティメディア)、海外ファンド事業、その他(主にTVバンク、福岡ソフトバンクホークス関連事業)の業績が反映されています。

第13回株主優待制度のご案内

2008年3月31日現在、1単元(100株)以上を保有されている株主および実質株主の皆さまを対象に、「ソフトバンク携帯電話株主優待」および「Yahoo! BB株主優待」を実施します。「ソフトバンク携帯電話株主優待」と「Yahoo! BB株主優待」は、併せてご利用いただけます。

- 株主優待制度の詳細については、当社ウェブサイト内「株主優待制度」のページをご参照ください。
www.softbank.co.jp/yutai/

ソフトバンク携帯電話株主優待

優待対象者および優待内容

- ソフトバンク携帯電話を新規契約された方*1に、10,000円分の商品券をプレゼント*2
- 既にソフトバンク携帯電話をご利用で、「基本オプションパック」*3に加入済みの方は、基本オプションパック月額使用料*4を3カ月無料*5に

*1. 新スーパーボーナス用販売価格でソフトバンク携帯電話を購入された方、1回線に限りです(法人契約およびプリペイド式携帯電話は適用対象外)。

*2. 優待適用期間中に実施されている、ほかのキャンペーンとの併用はできません。

*3. 基本オプションパックは「紛失ケータイ検索サービス」「安心遠隔ロック」「迷惑メールブロック(自動設定)、電話帳バックアップ(※)」「電話帳バックアップ(※)」「位置ナビ」「留守番電話プラス」「割込通話」「多者通話」がセットになったオプションサービスパックです(ソフトバンク3G携帯電話の場合)。なおご契約内容や機種によって、ご利用いただけないサービスがあります。

*4. ソフトバンク3G携帯電話の場合498.75円(税込み)、ソフトバンク6・5・4・3・2シリーズ携帯電話の場合399円(税込み)です。

*5. 1回線につき1回限りとさせていただきます。新スーパーボーナス加入特典や、第12回ソフトバンク携帯電話株主優待の、基本オプションパック月額使用料無料特典が適用されている場合、その無料期間の終了後に適用されます(法人契約は適用対象外)。

お申し込み方法

ソフトバンク携帯電話を新規契約される場合は、同封の株主優待券を販売店へ必ずお渡しください。申し込み手続き完了後のご提示は無効となります。お申し込みいただいた翌月末以降に商品券を発送します。また既にソフトバンク携帯電話をご利用の方が、基本オプションパック月額使用料3カ月無料を利用される場合は、株主優待券(はがき)に必要事項をご記入の上、郵送してください。

- 詳細については、同封の「株主優待ご利用説明書」をご参照ください。

受付期間

2008年6月26日～2008年11月30日(株主優待券に記載しています)

ソフトバンク携帯電話株主優待コールセンター

〈ソフトバンク携帯電話株主優待に関するお問い合わせ〉

☎ 0120-982-543

受付時間 9:00～20:00

〈ソフトバンク携帯電話に関するお問い合わせ〉

ソフトバンク携帯電話から157 / 一般電話から ☎ 0088-21-2000

オペレーターによる受付時間 9:00～20:00

Yahoo! BB株主優待

優待対象者および優待内容

- 「Yahoo! BB ADSL通常タイプ」または「Yahoo! BB ADSL電話加入権不要タイプ」を新規契約された方に、10,000円をキャッシュバック。また同時に「BBTV」(ベーシックチャンネルパック)を新規契約された場合、さらに2,000円をキャッシュバック*1
- 既に次の回線サービスをご利用で、かついずれかのオプションサービスをご利用の方に、ADSLサービス料(またはISPサービス料)相当分を割引*2

(2008年6月現在)

回線サービス (優待適用対象サービス)		オプションサービス*3	優待内容	優待金額/月額 (税込み)
Yahoo! BB ADSL 通常タイプ 電話加入権不要タイプ おとくラインタイプ	50M	「無線LAN」パック 「ダブル無線」パック 「BBTV」(ベーシック チャンネル)パック のいずれか	ADSLサービス料 相当分を割引	1,564円
	50M Revo*4			1,564円
	26M			1,459円
	12M			1,249円
Yahoo! BB 光 TV package	8M		ISPサービス料 相当分を割引	1,039円
	マンション			1,354円
	ホーム			1,354円

*1. 既に「Yahoo! BB ADSL通常タイプ」または「Yahoo! BB ADSL電話加入権不要タイプ」をご利用で、「BBTV」(ベーシックチャンネルパック)を追加申し込みされた場合は、②の優待を適用させていただきます。

*2. 保有株式数に応じて割引期間が異なります。割引期間は次の通りです。

100株以上1,000株未満保有	1カ月/半期
1,000株以上保有	3カ月/半期

*3. 回線サービスによってご利用いただけるオプションサービスが異なります。

*4. 「Yahoo! BB ADSLおとくラインタイプ」では提供していません。

※①②とも、1契約回線につき1回限りとさせていただきます。
なお①と②を併せてご利用いただくことはできません。

お申し込み方法

「Yahoo! BB ADSL」を新規契約される場合は、Yahoo! BB株主優待コールセンターへ電話でお申し込みください。また既に「Yahoo! BB」をご利用の方がADSLサービス料(またはISPサービス料)相当分の割引を利用される場合は、当社ウェブサイト内「株主優待制度」のページよりお申し込みください。

- 詳細については、同封の「株主優待ご利用説明書」をご参照ください。

受付期間

2008年6月26日～2008年11月30日(株主優待券に記載しています)

Yahoo! BB株主優待コールセンター

〈Yahoo! BB株主優待および新規申し込みに関するお問い合わせ〉

☎ 0120-989-491

受付時間 10:00～18:00(施設点検日およびメンテナンス日は休業)

会社概要

商号(社名)

ソフトバンク株式会社
(英文社名) SOFTBANK CORP.

本店所在地

東京都港区東新橋 一丁目9番1号

設立年月日

1981 (昭和56)年9月3日

資本金 (2008年3月31日現在)

187,422,993,101円

株主数 (2008年3月31日現在)

383,786名

取締役および監査役 (2008年6月25日現在)

代表取締役社長 孫 正義

取締役

宮内 謙

笠井 和彦

井上 雅博

ヤフー株式会社 代表取締役社長

ロナルド・フィッシャー

SOFTBANK Holdings Inc. Director and President

ユン・マー

Alibaba Group Holding Limited

Director, Chairman of the Board and CEO

柳井 正 (社外取締役)

株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長

村井 純 (社外取締役)

慶應義塾大学 環境情報学部教授

マーク・シュワルツ (社外取締役)

MissionPoint Capital Partners, LLC Chairman

常勤監査役

佐野 光生

公認会計士

監査役

宇野 総一郎 (社外監査役)

弁護士

柴山 高一 (社外監査役)

公認会計士、税理士

窪川 秀一 (社外監査役)

公認会計士、税理士

株主メモ

事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会

6月

基準日

毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主をもって、その事業年度に関する定時株主総会において権利を行使すべき株主とする。その他必要があるときは、あらかじめ公告して基準日を定めることができる。

期末配当金

期末配当金は、毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主もしくは登録株式質権者に支払う。

中間配当金

中間配当を実施する場合は、取締役会の決議により毎年9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主もしくは登録株式質権者に支払う。

会社が発行する株式の総数

3,600,000,000株

発行済株式総数 (2008年3月31日現在)

1,080,664,578株

1単元の株式数

100株

株主名簿管理人

〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

(連絡先)

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL: 0120-232-711 (オペレーター対応)
TEL: 0120-244-479 (音声自動応答、用紙のご請求専用)
URL: www.tr.mufg.jp/daikou/

(取次所)

三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

公告方法

電子公告の方法による。

公告掲載 URL: www.softbank.co.jp/kokoku/

(ただし、電子公告の方法によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告を掲載します)

株券電子化が実施されます

2009年1月(予定)より、株券の電子化が実施されます。お手元に株券をお持ちの株主さまは、株券がご本人名義になっているか必ずご確認ください。

ご本人以外の名義になっている場合は、株主の権利を失う恐れがあります。

詳細は日本証券業協会 証券決済制度改革推進センターのホームページをご参照ください。

証券決済制度改革推進センター www.kessaicenter.com

ソフトバンク株式会社

〒105-7303 東京都港区東新橋一丁目9番1号

TEL: 03-6889-2000

E-mail: sb@softbank.co.jp

www.softbank.co.jp

メールマガジン「SOFTBANK BB Mail」は、

www.softbank.co.jp/bbmail/

からお申し込みいただけます。

SOFTBANKおよびソフトバンクの名称、ロゴは、日本国およびその他の国におけるソフトバンク株式会社の登録商標または商標です。その他記載される会社名、ロゴ、製品名およびブランド名などは、ソフトバンク株式会社または該当する各社の登録商標または商標です。本誌に掲載されている携帯電話の画面はイメージです。実際の画面と異なる場合があります。

Copyright © 2008 SOFTBANK CORP. All Rights Reserved.

2008年6月25日発行



本誌は古紙配合率100%の再生紙と植物性大豆油インキを使用しています。